

各種アンケートを踏まえた改善策(重点項目)

1. 健康栄養学部

- 1) コミュニケーション能力を高めるために、各学部合同でグループ学習を含めた講義を充実させる。
- 2) 社会で通用する人間を育てるために、新カリキュラムには、特別講座としてボランティア活動に単位を付与する「食と健康のフィールドワーク」を新設し、1年次からボランティア活動に取り組みさせる。
- 3) 臨地実習の必要性を十分に理解させ、実習に行かせる。実習後の実施報告書提出時に内容をチェックし、担当教員による質問を行い不十分な場合は課題を与え、十分に理解できるまで指導する。
- 4) クラブ・同好会活動を充実するために、学生に「まんてん食堂」の紹介・勧誘をオリエンテーション時に実施する。
- 5) 就職指導を充実させるために、学部就職委員との個別面談を早期に実施し、管理栄養士として活躍できる職業の紹介、今後の活動の進め方、および学生支援センターの活用などのアドバイスを行う。

2. 看護学部

将来的に臨床看護師に必要とされる能力の育成を目指す。

教員は、学生の個として良いところを見出すことと、医療者としての品位、倫理観が育成できるような働きかけを意識的に実施する。

学修面では、「プレゼンテーション能力」「問題解決力」「幅広い知識・能力」の育成を実施する。

臨地実習面では、「文章力」「優先順位が考えられる力」「チーム力」の育成を実施する。

【具体策】

《講義・演習・ゼミナール》

- 1) プレゼンテーション能力の育成として、一方向的ではなく双方向での講義を展開し、学生が自ら発信できる方法を積極的に取り入れ、他者にわかりやすく伝える方法を身につけられるようにする。
- 2) 問題解決力の育成として、臨地実習で遭遇する事例を使うことや、探索的な課題を提示し、考えることを促す講義・演習の展開。
- 3) 幅広い知識・能力の育成として、上記の1)、2)以外に、国家試験の模擬試験を使った振り返り方法として、調べて深めていく学習方法を実践する。
- 4) アクティブラーニングを活用しながら、自ら学ぶ方法を取り入れる。

《臨地実習》

- 5) 文章力育成として、レポートや実習記録のフィードバックを意図的に実践する。
- 6) 優先順位が考えられる力の育成として、1日の計画立案時に優先順位を考えるように指導する。
- 7) グループメンバーでの自己の役割意識が持てるような指導をする。

3. 医療科学部

教員は国試合格と就職を目標に学生を精一杯サポートする。

- 1) 臨床検査技師国試に合格してもらうこと
- 2) 臨床検査技師として就職できること

【国試対策】

医療科学部は、アドバイザー（ゼミ）の教員が様々な個性を持つ学生に合わせて、学習指導を行ってきた。また、国試過去問より、医療科学部独自の模擬試験を作成し、1年時より徐々に模試の回数を増やしてきた。国試合格者をさらに増やすために、今年度から、4年生を中心に、定期的な模擬試験の復習を徹底させ、教員による国試対策講義に加えて、学生の自主的学習、ゼミの教員による個別指導をより充実させることとした。

【就職】

就職に関して、昨年は病院の他に大手の検査センターを含めて受験させた。その結果、多数の学生が大手検査センターに合格することができたことから、今年も病院の他に大手検査センターを含めて幅広く就職活動を進めており、既に多数の内定が得られている。